

平成18年 6月 7日

陳情書

平塚市議会議長 伊藤 裕 様

馬入ふれあい公園、サッカー拠点の整備に関する陳情書

サッカー拠点となる馬入ふれあい公園に、ベルマーレと市民が共有できるクラブハウス等施設建設を不可とする平塚市の判断を憂慮します。

ご存知の通り、湘南ベルマーレは、この平塚にベルマーレをいつまでも残したいと願った市民らが立ち上がり、必死の存続活動によって、平成11年12月に新たな船出を果たしました。資産もなく低予算で切り盛りする独立採算制の小規模クラブですが、応援する数多くの人々と共に、夢に向かって挑戦を続けています。

さらにJクラブでは初のNPOを立ち上げ、サッカー、フットサル、バレーボール、水泳、自転車、マラソン、ソフトボール、小学校巡回授業、ウォーキング・ストレッチ・栄養講習を組み合わせたシニア健康づくり教室等、子どもから高齢者に至るスポーツ振興と健康増進活動を展開。『地域スポーツ文化を概念から具現化したクラブ』として、全国の関連団体から熱い視線が注がれています。湘南ベルマーレ、それは『可能性を生み出すクラブ』なのです。

並み居る競合を抑え、2002FIFAワールドカップ記念事業「サッカーを中心としたモデル的スポーツ環境整備助成」を獲得したのも、ベルマーレの実績とビジョンが高く評価されたものです。加えて、サッカー文化を掲げる平塚市とのパートナーシップにより全国の模範となる地域スポーツ文化が構築されることへの期待、さらに、市民とベルマーレが共有できる施設整備を視野に入れての助成決定であったと理解しています。今回平塚市の示した判断は、助成者側の信頼を大きく損なう行為であり、パートナーシップのありかたが疑われる事態を招いています。市民からも地域スポーツ文化の発展を心配する声が上がっているの言うまでもありません。

地域における都市公園とは、多くの人に利用され、賑わいを創生することに価値があります。馬入ふれあい公園は来園者が増え、より一層の周辺整備が必要と考えます。画一的な制約に足を取られ、地域の特色を生かせない公園施策は貧困の一言につきます。ベルマーレが考えるクラブハウスは、プロサッカーチームに欠かせない機能を有すると同時に、市民・来園者が利用する飲食ブースや、健康関連施設を併設した便益性・公共性の高い、まさにヨーロッパ型クラブハウスです。それは公園に付加価値をもたらし、市民らの夢と笑顔と活力が集う場所となることを確信します。周辺市町から多くの人が馬入ふれあい公園を目的に、平塚を訪れる光景も浮かびます。

平塚市は本年発行した「ひらつかグッド・デイズ」16頁でも、平塚自慢「市民のサッカークラブを持つ誇り」とベルマーレを謳っています。湘南ベルマーレを中心とした地域スポーツ文化の発展に、市は今こそ強いパートナーシップを示し、未来へと続く架け橋を積極的に構築すべきです。

陳情事項

- 1、馬入ふれあい公園に便益性の高い(ヨーロッパ型クラブハウス、レストハウス等)建設措置を至急講じること。

ベルマーレサポーター1万人による「クラブハウスを考える会」

代表
住所